

組織目標評価報告書(2019年度)

17-3

部局名: **大学院医歯薬学総合研究科 薬学系** 部局長名: **三好 伸一**

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】大学院講義においても、シヤトルカード等を活用して受講生と教員の積極的な意思疎通を図り、学生の理解度と問題点の把握に努める。FD委員会主催による定期的な教員FDを実施し、教員間での教育(講義・研究活動)に関する意見交換を実施し、教育の質の検証ならびに改善に努める。世界トップレベルの研究者を外部非常勤講師として招聘し、大学院講義のみならず、学部生・大学院生・教員を対象とする特別講演会を開催してモチベーションの向上を図る。</p> <p>【教育方法・内容】新規大学院生のための「教養教育」に相当する講義を実施し、FD等を介して問題点を探る。従来の講義体制についても同様の検証を進める。学外研究機関を訪問する見学研修等の機会を設け、大学院生の研究に対する意欲向上や将来のキャリアパス形成に対する意識啓発に資する教育を実施する。</p> <p>【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)】大学院入学直後に、卒業後の進路に関する意識調査を実施するとともに、FD等を通じてその結果を検証し、大学院教育と学生の進路の関係並びに課題を明確化して高い教育効果を生む大学院教育の基盤構築に努める。</p> <p>【国際共同による教育の状況】博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施する。外国人留学生の受入れ推進に向けて、海外特別入試の導入に向けた整備を始める。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員2名に対する研究指導を継続実施する。博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施する。</p> <p>外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館)受入プログラムを実施し、参加希望の成均館大学薬学校(韓国)大学院学生6名(成均館大学から推薦された学部学生を含む)を受け入れ、薬学部の外国人短期研修生受入プログラムとしての修了証の発行をする。</p> <p>【その他】2020年度に実施される第3期中期目標期間評価に向けて、教育活動の状況の分析項目についての確認・準備を行う。</p>		<p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】大学院講義におけるシヤトルカード等の積極的な活用を通じて受講生と教員の意思疎通の充実を図り、学生の理解度と問題点を把握した。FD委員会主催による定期的な教員FDを実施し、教員間での教育(講義・研究活動)に関する意見交換を実施し、教育の質の検証ならびに改善に努めた。世界トップレベルの研究者(計5名)を外部非常勤講師として招聘し、大学院講義のみならず、学部生・大学院生・教員を対象とする特別講演会を開催した。</p> <p>【教育方法・内容】新規大学院生のための「教養教育」に相当する講義として「先端薬学特論」を再編し、実施した。FD等を介した従来の講義体制の問題点について検証を進めつつある。学外研究機関を訪問する見学研修等の機会を設け、大学院生の研究に対する意欲向上や将来のキャリアパス形成に対する意識啓発に資する教育を実施した。</p> <p>【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)】大学院入学直後に、新規入学者を対象とする卒業後の進路に関する意識調査を実施した。調査結果をもとに大学院教育と学生の進路の関係ならびに課題について検証を進めている。</p> <p>【国際共同による教育の状況】博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施した。外国人留学生の受入れ推進に向けて、海外特別入試の導入に向けた検討を始めた。</p> <p>【外国人留学生の受入状況】博士後期課程在学中のミャンマーFDA職員2名およびハイフォン医科薬科大学教員1名に対する研究指導を継続実施した。博士後期課程在学中のダブル・ディグリープログラム履修学生1名への成均館大学薬学校(韓国)と連携した共同研究指導を継続実施した。</p> <p>外国人短期研修生:キャンパスアジア・先端医療応用コース(薬)短期受入プログラムを実施したが、成均館大学薬学校(韓国)から推薦された6名の学生はいずれも学部学生であった。</p> <p>高度先端薬師養成事業の国際派遣プログラムに採択されたサン・カルロス大学(フィリピン)への短期派遣プログラムを徳島大学薬学部と合同で実施し、博士課程の大学院生1名(薬学部学生:本学4名、徳島大学1名)が参加した。</p> <p>【その他】2020年度に実施される第3期中期目標期間評価に向けて、教育活動の状況の分析項目についての確認と関連資料の作成を行った。さらに研究科(教育)の外部評価を実施した。</p>
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【研究の実施体制ならびに実施状況】薬学系横断的な新規研究プロジェクトである国立医薬品食品衛生研究所レギュラトリーサイエンス関連部門との連携プロジェクト推進する。また、開設した連携大学院を広め、薬剤師や社会人を含む大学院生を募り、リカレント教育を推進する。</p> <p>【研究資金の獲得状況】科研費を含む外部資金獲得に関して、教員会議等を利用して、積極的な応募を全教員に複数回アナウンスし、周知徹底を図る。教員全員が科研費に応募するよう努める。</p> <p>【国際共同による研究の状況】博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を推進する。</p> <p>【女性・外国人研究者の受入状況】博士後期課程でのミャンマーFDA職員2名(うち1名が女性)の研究指導を継続する。博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)の研究指導を継続する。下痢症感染症に関する国際共同研究実施のため、インド人研究者1名(女性)を引き続き受入れる。</p> <p>【外国研究機関における研究従事状況】サバティカル制度導入にあたっての取り組みの検討を行う。インド国コルカタ市の国立コレラおよび腸管感染症研究所に教員2名が常駐し、下痢症感染症に関する国際共同研究を継続する。</p> <p>【その他】2020年度に実施される第3期中期目標期間評価に向けて、研究活動の状況の分析項目についての確認・準備を行う。</p>		<p>【研究の実施体制ならびに実施状況】新たに開設した国立医薬品食品衛生研究所レギュラトリーサイエンス関連部門との連携大学院に関して、2020年4月入学予定の大学院生が決定した。本学薬効解析学研究室(上原教授)と国立衛研薬理部門(諫田部長)との連携プロジェクトが開始した。</p> <p>【研究資金の獲得状況】科研費応募時期に積極的な応募を全教員に複数回アナウンスすることで、当該教員全員(100%)が応募した。また、応募件数も教員当たり1以上となり、複数の科研費に応募した教員数が飛躍的に増した。</p> <p>【国際共同による研究の状況】博士後期ダブル・ディグリーでの国際共同研究を継続した。</p> <p>【女性・外国人研究者の受入状況】博士後期課程でのミャンマーFDA職員2名(うち1名が女性)の研究指導を継続した。博士後期課程でのハイフォン医科薬科大学教員1名(女性)の研究指導を継続した。下痢症感染症に関する国際共同研究実施のため、インド人研究者1名(女性)を引き続き受入れた。</p> <p>【外国研究機関における研究従事状況】サバティカル制度導入にあたっての取り組みに関して検討を行った。また、インド国コルカタ市の国立コレラおよび腸管感染症研究所に教員2名が常駐し、下痢症感染症に関する国際共同研究を引き続き実施した。</p> <p>【その他】2020年度に実施される第3期中期目標期間評価に向けて、教育活動の状況の分析項目についての確認と関連資料の作成を行った。さらに研究科(教育)の外部評価を実施した。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【地域社会との連携、社会貢献】</p> <p>①薬剤師および一般社会人等を対象とした薬学部公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努める。</p> <p>②地域の職能団体等と連携した卒前・卒業教育の実施、岡山県薬剤師研修協議会と連携した各種薬剤師研修事業への参画を推進する。</p> <p>③各種講演会等にあわせて薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。</p> <p>【国際交流・協力】</p> <p>①成均館大学(韓国)との連携をさらに深めるとともに、他のアジアの有力大学・研究機関等との連携を進め、国際交流を推進する。</p> <p>【その他】</p> <p>①同窓生の交流を推進するため、岡山大学ホームカミングデーにおいて、卒業生と在学生の交流の機会を設ける。</p> <p>②岡山大学創立70周年記念事業に協力するとともに、薬学部創立50周年事業を企画・実施する。</p>		<p>【地域社会との連携、社会貢献】</p> <p>①薬剤師および一般社会人等を対象とした薬学部公開講座(参加者73名)、高校生および一般社会人を対象とした公開講演会(参加者64名)を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努めた。</p> <p>②岡山県薬剤師研修協議会等、地域の職能団体等と連携した卒前・卒業教育を実施した。また高大連携事業や岡山大学付属中学校の大学訪問において、薬学部の取組や薬剤師の役割について講義を行った。</p> <p>③公開講演会、公開講座、ホームカミングデー2019等にあわせて薬用植物園の一般公開を行い、地域住民や講演会等の参加者に向けて薬学関連の科学に対する社会的な理解に努めた。</p> <p>【国際交流・協力】</p> <p>①成均館大学(韓国)との大学院学生の交流をさらに進化させることで合意した。サン・カルロス大学との交流を推進するため、さくらサイエンスプランで大学院学生1名(学部学生3名)を招へいた。他のアジアの有力大学との間で若手教員・大学院学生の本学大学院入学を推進すべくハイフォン医科薬科大学、バンメート大学薬学部(ベトナム)との協議を行った。</p> <p>【その他】</p> <p>①ホームカミングデー2019において、岡山大学薬学部創立50周年事業として、同窓生シンポジウムを開催し、卒業生・在学生等123名の参加を得た。</p> <p>②薬学部公開講座や公開講演会を岡山大学創立70周年記念事業および薬学部創立50周年事業として実施した。</p>
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【部局運営体制の改善強化】医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を進めていく。</p> <p>【部局組織の活性化】適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力していく。</p> <p>【ダイバーシティの推進】女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を目指す。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。</p> <p>【施設整備の推進】安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。</p> <p>【法令遵守の徹底】情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。</p> <p>【その他】国際交流に関して、成均館大学、ミャンマーFDA、ハイフォン医科薬科大学等との交流をさらに深化させ、学生交流の実質化を進める。</p>		<p>【部局運営体制の改善強化】医学系、歯学系との継続的な協力により、部局運営体制の改善強化を進めた。</p> <p>【部局組織の活性化】適切な部局運営を行うために、医学系、歯学系と継続的に協力した。</p> <p>【ダイバーシティの推進】女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討し、女性教員1名の内部昇任の審査に着手した。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。</p> <p>【施設整備の推進】安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設を点検し、機能改善の整備を進めた。</p> <p>【法令遵守の徹底】情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図った。</p> <p>【その他】国際交流に関して、成均館大学、ミャンマーFDA、ハイフォン医科薬科大学等との交流をさらに深化させ、学生交流の実質化を推進した。</p>